

五

Kodai

大

Jini

大

1 ●ごあいさつ

同窓会会長
理事長
学長
副学長
副学長
工学部長
ライフデザイン学部長

秋元 俊通
樋口 龍雄氏
今野 弘氏
石川 善美氏
渡邊 浩文氏
小林 正樹氏
菊地 良覺氏

6 ●トピックス

8 ●お知らせ

9 ●特集1 恩師からの便り

元教授(都市マネジメント学科) 村井 貞規氏
元教授(建築学科) 高橋 恒夫氏

11 ●特集2 座談会

17 ●学生会員の活躍

18 ●支部活動等報告

22 ●活躍する工大人

古川工業高校校長 萩野 元彦氏
東急建設株式会社土木部土木技術設計部設計グループ第2チームリーダー
有田 剛氏
東北工業大学ライフデザイン学研究所デザイン工学専攻
佐藤 諒氏
株式会社七十七銀行窓口相談 千田あかり氏

24 ●インフォメーション

25 ●「同窓会名簿改訂版」発行について

●同窓会総会・懇親会のご案内

工大人第 20 号 発刊のご挨拶



東北工業大学同窓会 会長

秋元 俊通 (あきもと としみち)

1975年 土木工学科卒業(5回生・菊地研究室)
現 在 株式会社 秋元技術コンサルタンツ
代表取締役
土地家屋調査士 秋元俊通事務所
所長

会員各位におかれましては、ますますのご健勝のこととお喜び申し上げます。我々が東北工業大学におかれましても、一昨年に創立 50 周年を迎えられ、ますますのご隆盛に感慨深いものがございます。

また、当同窓会も、昨年めでたく創立 30 周年の節目を迎えることができました。これは偏に、会員各位の深いご理解と大いなるご協力そして大学御当局をはじめとする関係各位の温かいご指導の賜物と、同窓会役員一同を代表して心より感謝申し上げます。

この創立 30 周年記念事業の一環として、初めて「同窓生関東圏の集い」を開催し、岩崎理事長様(当時)から、記念講演をいただき、懇親会も初めての開催とは思えないほどに和気藹々としたものとなりました。この関東圏の集いも定期的に開催していきたいものと思いましたが、また一つのネットワークが広がったと実感させていただきました。

当同窓会の活動方針である「新たなネットワークを目指して」と言う、この間、新潟県、青森県並びに北海道に支部を結成し、岩手県、秋田県および福島県で毎年のように「同窓生の集い」を開催してまいりました。さらに、いくつかの職域支部がございますし、うれしいことに今年は宮城県内教職員支部が発足いたしました。やっとネットワークが整いつつあるという現状ではありますが、このネットワークをさらに太く強固なものとするのが同窓会の責務の一つと自覚し、一層励んでまいりたいと思っております。

すので、皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

今年度の重点事業として、新卒業生の就職支援だけではなく、会員が何らかの都合で転職または就業地の変更を余儀なくされていらっしゃる場合の、求人マッチング情報の提供システムの構築があります。これによって、一段と会員サービスが高まるのではないかと思慮いたしております。

さて、この 30 年を振り返っての大いなる出来事は、やはりあの忌まわしい東日本大震災でした。発災から 6 年目に入った現在も復興道半ばといわざるを得ない状況ですが、この復旧復興に際しましては大学の社会貢献はもとより、多くの学生や同窓生も献身的な活躍をなさってこられたことに心より敬意を表します。研究よりも実践を旨としてきた我々工大人の本領発揮といったところだと誇りに思っております。

少子化によって入学者の減少が懸念されております昨今ではありますが、我々同窓生は自らの業務や社会活動を通して大学の盛名を轟かせ、学生の確保と卒業生の就職支援を行ってまいりますよう、今後とものご協力の程よろしくお願い申し上げます。

末文ではございますが、創立 50 周年を迎えた東北工業大学の一層のご発展と皆様の益々のご活躍を祈念いたし、工大人第 20 号の発刊の挨拶とさせていただきます。

同窓会の皆様へ



東北工業大学 理事長
樋口 龍雄 (ひぐち たつお) 氏
1940年 仙台市生まれ
東北大学評議員、同大学院情報科学研究科長、
同情報処理教育センター長を経て2003年
本学教授に着任。2010年退職後、本学参与、
学外理事、評議員、現在に至る。

このたび創立 50 周年の輝かしい歴史のある本学の理事長に就任いたしました。まさに身の引き締まる思いがいたします。同窓生の皆様には、これまで同様文字通り物心両面のご支援とご協力を心からお願いいたします。

さて、これまでご心配をおかけしておりました入学者の定員確保が今年 4 月達成され、以前にもましてキャンパスには若者の活気が感じられます。これも岩崎前理事長・宮城前学長のもと同窓生はもとより、全学一丸となった地道な努力がようやく実を結んだといえましょう。今後も「創造から統合へ ― 仙台からの発信―」の旗のもと、伝統の上に日々新しく発展を遂げるよう、全学を挙げて取り組んでまいります。

かつてベルグソンは、人間は本来「ホモ・ファーベル」であると規定しました。このラテン語は「耕作人」とか「作る人」とか訳されますが、「つくる」ということは「知る」「考える」とも異なる人間の本性上の営みであり、創造活動であるとしています。少子化を嘆く前に、本来備わっているはずの若者の「ホモ・ファーベル」の本能のスイッチを、いかにオンにできるかが試されます。そのためには、座して待つのではなく、啓発するためのありとあらゆる機会を作ることが肝要と思います。そう考えれば、本学が対象とする若者の裾野は広く、まだまだ未開拓、未来があるといえましょう。

ところで写真の掛け軸は、本学高校第 2 代校長の故宇野量介先生から頂いたものです。「心ゆことほぐ我はわれをかこむ いく人が中に光いでよ出でむ」八十之老量介書とあります。量介先生が八十のときに書かれたものですが、実に力強く堂々として、直接間近に見てみるとその迫力と覇気が伝わってきます。同窓生の皆様お一人おひとりが「光いでよ出でむ」ことを、さらには量介先生にあやかって、ますますお元気でご活躍されることを心から願っています。



これからの半世紀に向けて —東北工業大学史料センターの開設



東北工業大学 学長
今野 弘 (こんの ひろし) 氏
1971年 工学部土木工学科卒業
1980年 工学博士(東北大学)
1980年 東北工業大学工学部土木工学科 講師
1995年 同工学部土木工学科 教授
(現都市マネジメント学科)
2008年 同副学長
2016年 同大学学長

同窓会の組織力、そして同窓生の皆さまのひとり一人の活動が本学の大きな支えになっております。東北工業大学同窓会の皆さまには、本学の大きなご支援をいただいていることに対し、まずは厚くお礼申し上げます。また東日本大震災の復興事業をはじめ、全国的な産業および社会基盤の整備にご活躍されている同窓生の皆さまに敬意を表します。

本学はこれまで3万3千余人材を輩出してきました。建学の精神が示すように、東北地方から毎年95%以上が本学に入学し、卒業生の多くは、地域の活性化や産業振興のために、震災復興はもとより、産業や人々の豊かさに貢献する活動をしてきました。

卒業生の方々は、どこの地域にも溶け込んで、外国人やほかの地域の方とも協力して活動できる感性と人間性を備えていると評価されていることを本学の誇りとしています。

そのような評価は、まさしく同窓生の皆さまの業績に基づいているわけですが、結果として大学も建学の精神や教育理念および各方策などが社会的に評価されていると認識しております。

このような本学の半世紀の活動を紹介するブースとして「東北工業大学史料センター」を2016年7月に学内(八木山キャンパス, 図書館内)に開設しました。これまでの半世紀にどのような事業やイベントが実施され、どのような方々が、どのような思いで、何をなされてきたか、それに触れる資料を「史料センター」にまとめました。

本学開学後の四半世紀は「昭和の後半」の時代で、科学技術の発達とともに高度成長期があり、その流れにのって着実に自立への道を進んできました。後の四半世紀は「平成」とともに歩み、バブル経済後の不況で日本でも「失われた10年」といわれた時代でしたが、しっか

りと地歩を固めてきました。

温故知新 古きをたずねて新しきを知る。

本学創設のルーツを明らかにする作業は半世紀を過ぎた50年目の2014年に「東北工業大学50年史」としてまとめられました。本学の建学の精神が、「我が国特に東北地方の産業界において指導的役割を担う技術者の養成」ということが確かめられました。本学のルーツをたずねてみて本学の理念は、社会貢献する人材の育成であるということがいっそう明確になり、また「創造から統合へ 仙台からの発進」という大学のスローガンも理念とその方向性を一つにし、これからの半世紀を示す指針としても確認されたわけです。

「史料センター」において、これまでのできごとや背景、技術や業績、そしてそれを成し遂げた人に触れることで、ここを訪れたすべての方に、新しい道が示されたり、特に本学の学生そして卒業生の皆さまには、本学の意義、その精神を改めて実感していただけるとうれしいと思います。来学の折にはぜひお立ち寄りください。

今後とも教職員がひとつになって教育、研究、そして社会貢献という大学の使命を果たしてまいります。東北工業大学同窓会の皆さまにはこれまで同様のご支援をお願いします。



史料センターオープンセレモニー

ごあいさつ

新生工大 2016

副学長

石川 善美 (いしかわ よしみ) 氏

1990年 東北工業大学助教授
(工学部工業意匠学科)

1994年 同教授

2008年 同ライフデザイン学部安全安心生活デザイン学科に配置換え

2012年 同副学長、ライフデザイン学部長

2016年 副学長



同窓会の皆さまには、日頃から本学の教育研究活動に対しまして多大なご協力、ご支援をいただいております。心よりお礼申し上げます。

さて、すでにご承知の通り、前学長の宮城光信先生の任期満了に伴い、この4月から、本学の第9代学長として今野弘先生が就任いたしました。今野先生は本学土木工学科の卒業生であります。本学は2年前の2014年に創立50周年を迎えましたが、50年を経て初めて、生え抜きの学長を誕生させたわけでございます。一般的によく言われていることですが、卒業生から学長を出せばその大学は一人前だということでもあります。我々教職員一同、この意義深さを心に刻み、今まで以上に一致団結して業務に励んでいるところです。

また、25年にわたりまして本学の学長と理事長を務められた岩崎俊一先生もこの3月に退任され、新しく、本学理事長に樋口龍男先生が着任されました。さらに、この4月からは、もう一人の副学長の交代に加えて、工学部、ライフデザイン学部とも学部長が新しくなりました。すなわち、本年度は、本学に取りましてトップマネジメントメンバーの多くが交代という、まさに心機一転の年になったわけでございます。

このような状況というのは、組織にとってベテランの退場というネガティブな側面もありますが、逆の見方をすれば、物事がさまざまに活性化するよいチャンスでもあります。実際、この新生工大を祝うかのように、今年度の入学生は、大学、高校とも、数年ぶりに定員を上回ることができました。大変喜ばしいことでもあります。

さらに、今年度から、皆さんご存知の一番町ロビーが充実のリニューアルオープンを果たしましたし、図書館本館には東北工業大学史料センターが新しく併設されるなど、キャンパスは、八木山、長町ともに、従来にも増して活気に満ちております。是非、多くの同窓生の方々に、以上のような新生工大を見ていただきたいと思っている次第です。最後になりますが、同窓生の皆さまのますますのご健勝を心より祈念申し上げます、近況かたがたご挨拶といたします。

ごあいさつ

同窓会諸兄に期待すること

副学長

渡邊 浩文 (わたなべ ひろのり) 氏

1998年 工学部建築学科 講師

2002年 助教授

2008年 教授

2012年 建築学科長

2014年 工学部長、工学科学科長

2016年 副学長



新たな半世紀に踏み出した本学が改めて強化しなければならないことのひとつが、同窓会の皆さまを主とする社会との協働であります。

皆さんは「学力の3要素」をご存じでしょうか？これは文部科学省が定める学習指導要領に示された①基礎的・基本的な知識・技能、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、そして③主体的かつ協調的に学習に取り組む態度のことです。大学においても、この学力の3要素をさらに伸ばすべく、大学教育改革と大学入学者選抜改革が進められています（「高大接続システム改革」と呼びます）。大学教育改革としては、各大学の建学の精神等に基づき①卒業認定・学位授与の方針、②教育課程編成・実施の方針、そして③入学者受け入れの方針を定め、これを体系的・組織的に実施するとともに、自己点検・評価、大学外部からの意見聴取や外部認証評価を踏まえて、継続的に改善するというPDCAサイクルを構築し、そして実行することが求められています。

本学ではこれら3つの方針に「学生指導の方針」を加えた「AEGGポリシー」を定め、取り組んでいます。ICT・IoTのインテリジェント化によって現代の職業の約半数が今後10～20年内に無くなるなどの予測があるような、不確実な激動の時代に社会を担う若者が「より良き社会」を逞しく築いていけるように育んでいかねばなりません。特に、主体的かつ協調的な学びの能力は、専任教員による様々な演習・研修に加え、実業界、同窓会諸兄との実践的活動（課題解決・社会ニーズ対応の産官民学協働）、すなわち解答例のない課題への取り組み、新たな価値を創造する取り組みを通じて、真に身に付けられます。ここに、同窓会の皆さまのご支援を期待する次第です。

既にいくつかの取り組みが試行されております。様々なご提案や大学教育へのご意見等々、忌憚なくお寄せいただきたくお願い申し上げます。また協働ではなく、皆さまご自身が専門をさらに深めて修士号・博士号の学位取得を目指す大学院社会人入学の制度もあります。こちらも是非、お問い合わせください。

ごあいさつ

工学部の近況と 同窓会への期待

工学部長

小林 正樹 (こばやし まさき) 氏

1961年 長野県生まれ
 1985年 東北大学工学部電気工学科卒業
 1986年 新技術開発事業団(現科学技術振興機構)
 1991年 山形県テクノポリス財団を経て
 2006年 東北工業大学工学部電子工学科教授(現知能エレクトロニクス学科)
 2016年 工学部長



同窓会の皆様には、日頃より物心両面にわたりひとかたならぬご支援を賜り厚く御礼申し上げます。震災以降、少子化の進行ともあいまって本学にとっては厳しい状況が続きご心配をおかけしておりましたが、今年度の入学者は工学部においても全学においても定員を充足することができました。地下鉄東西線の開業も追い風になりましたが、何よりも地域に密着した大学として、同窓会諸兄のご活躍も背景とした、これまでの実績が評価されたものと確信しております。

さて社会が不透明感を増す中であって、国はいま教育システムの抜本的な改革を強力に推し進めており、大学の教育改革はその中心課題とされています。少子化が急速に進む中で学生獲得競争に勝ち抜いていくためには、将来を見据えた教育改革を迅速に進めていく必要があります。私大に強く求められているのは教育のオリジナリティーであり、またそこで掲げる教育目標の達成と、その効果に対する説明責任としての客観的な評価体制の整備など教育システムの変革です。このような現状にあって、同窓会の皆様には本学の人材育成に積極的に関わっていただき、教育の一翼を担っていただくことを望みます。すなわち、本学卒業生にはどのような資質が求められるのか、そのためには何をどこまで、何に重心を置きつつ教育すべきかなど、本学OB・OGとして、また卒業生を受け入れる社会の側の立場として、工大が実践すべき教育のありかたについてご助言をいただきたいと思っております。教育は大学の中だけで閉じたものではなく、本学を支えていただく多くの皆さんとともに作り上げていくべきものであると考えます。迫り来る教育改革の荒波の中にあって、同窓会の皆さんに寄せる期待はこれまでも増して大きくなっているという現状をご理解いただくと幸いです。どうぞよろしくごお願い申し上げます。



ベンチを設置した八木山キャンパス

ごあいさつ

ライフデザイン学部の近況報告とこれからの同窓会活動に期待すること

ライフデザイン学部長

菊地 良覺 (きくち りょうかく) 氏

1953年 宮城県大崎市生まれ
 1976年 東北工業大学工業意匠学科卒(外岡研)
 1976年~83年 (株)小幡建設工業設計部・(株)群建築設計事務所
 1983年 東北工業大学工業意匠学科 助手
 2009年 ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科 教授
 2016年 ライフデザイン学部長



現在の長町キャンパスは、本学が昭和62年に二つ沢校地として取得し、平成2年に1、2年生を対象とした教養教育や体育施設を中心とした「二つ沢キャンパス」として開設されたことから始まります。平成20年4月には、本学の固いイメージを払拭し、これからの社会が求められるであろう、文理融合型の新たな学部が不可欠のことから、クリエイティブデザイン学科(CD学科)・安全安心生活デザイン学科(SD学科)・経営コミュニケーション学科(MC学科)の3学科を持つライフデザイン学部(学部生定員220人)を開設しました。尚、CD学科とSD学科は、工学部のデザイン工学科を背景とし、新たな要素を付加しつつ継承した形となっております。開設から今年で9年目を迎えておりますが、開設時は3学科のそれぞれの特徴を活かし有機的な繋がりある姿を、如何に社会に知っていただくかが課題でありました。3学科の関係をわかりやすく言えば、作り手(CD学科)・使い手(SD学科)・つなぎ手(MC学科)のそれぞれの立場で教育研究を行い、実社会で通用する人材育成を目指すことです。東日本大震災以降では、各学科で取り組んだ復興支援の、学生・教員との協働によるプロジェクト実践が多く見られましたが、地域社会での実践は学生の高い就職率に繋がることは確かであり、特に卒業生在籍の企業との繋がりも増すことにもなります。今後は、これまで以上に卒業生と繋がり(在学生へのセミナーの講話、インターンシップ等)を強化し、出口に強い学部であることを社会にアピールしたいと考えております。本同窓会と学部との実践的な連携事業を増やすことは不可決であり、同窓会とつくるライフデザイン学部をキャッチフレーズにするスローガンを打ち出したいとも考えております。今後ともご協力の程、宜しくごお願い申し上げます。



長町キャンパスにはヤギの親子も仲間として活躍中です(出前ヤギ:八木山市民センターにて)。

新体制

平成28年より大学の新体制が以下の通りとなりましたのでご紹介します。

理事長	樋口 龍 雄	経営コミュニケーション学科長	金 井 辰 郎
学 長	今 野 弘	教職課程センター長	渡 邊 浩 文
副学長	石 川 善 美	入試委員長	藤 田 豊 己
副学長	渡 邊 浩 文	教務委員長	木 戸 博 彦
工学部長	小 林 正 樹	学生委員長	高 橋 敏 彦
ライフデザイン学部長	菊 地 良 覺	就職委員長	千 葉 則 行
学長室長	上 杉 直	広報委員長	石 川 善 美
共通教育センター長	梅 田 健太郎	附属図書館長	原 田 一 司
知能エレクトロニクス学科長	丸 山 次 人	附属工場長	小 山 祐 司
情報通信工学科長	村 岡 一 信	ウェルネスセンター長	渡 邊 浩 文
建築学科長	石 井 敏	地域連携センター長	石 川 善 美
都市マネジメント学科長	中 山 正 与	情報サービスセンター長	上 杉 直
環境エネルギー学科長	丸 尾 容 子		
クリエイティブデザイン学科長	坂 手 勇 次	法人本部事務局長	樋 野 隆 一
安全安心生活デザイン学科長	小 山 祐 司	大学事務局長	佐 藤 亨

史料センターの設置

本年7月20日に、八木山キャンパス図書室内に、本学史料センターが設置されました。史料センターは、50年の歴史を持つ本学「知の資源」情報の可視化を行い、同窓生は勿論、在学生や高校生及び地域社会（一般市民）に向けて「発信する拠点」とし、併せて本学の歴史の「学びの場」とすることを目的に設置されたものです。

展示内容は下記のとおりです。

1. 人的資源
 - ・本学に勤務し、社会的・学術的等において顕著な業績を持つ人物
 - ・本学卒業生で、顕著な業績や活躍度の高い人物
2. 大学の沿革
 - ・設立50周年の記録を主体にまとめたもの
出展：東北工業大学50年史(平成22年発行)
東北工業大学同窓会名簿沿革史(平成24年発行)
東北工業大学学生生活(平成27年度版)
3. 産学官及び地域連携等の実績
 - ・産学官連携(協定等)及び学術交流協定締結一覧
 - ・地域連携に関する実践的な取り組み
4. その他
 - ・同窓生から学生へのメッセージ
 - ・本学の紹介や本学の教員・学生の活動を映像化したもの

現在、史料センターでは、岩崎俊一名誉理事長の

足跡をパネルで紹介し、併せて文化勲章などこれまで受賞された現物の紹介展示があります。また、地域貢献活動の先駆けである秋岡芳夫先生(元工業意匠学科長)のコーナーがあります。

同窓会からは、学生へのメッセージとして、28名のOBOGからのコメントをパネルにて紹介し、さらには、本学50年以上の歴史と活動紹介パネルを製作しました。同窓会としても史料センターが工大をアピールできる「学びの場」として発展することを願っております。工大人の皆様には、是非、キャンパスにお出でいただき、お立ち寄りいただければと考えております。



仙台市営地下鉄東西線が開通

平成 27 年 12 月 6 日（日）に「八木山動物公園駅」のある仙台市地下鉄東西線が開通し、東北工業大学への交通利便性が高まりました。これにともない「八木山動物公園駅」と八木山キャンパス、長町キャンパスをつなぐ無料シャトルバス「八木山シャトル」が運行され、翌 12 月 7 日（月）に運行開始テープカットセレモニーが行われました。本学キャラクター「もちろう」「あんこ」も参加し開通をお祝いしました。



シャトルバス運行開始セレモニー



宮城前学長の挨拶



B号車



C号車

また、平成 28 年 4 月入学の新入生から学生証を仙台市交通局の IC カード乗車券「icsca（イクスカ）」に切り替えました。この icsca 導入にあたり発行の一部を同窓会が援助しています。icsca 付き学生証は導入第 1 号として仙台市の WEB でも紹介されています。学生証は従来通り授業の出欠管理や図書館の書籍の貸し出しにも対応していて、今回の IC カード機能が加わることで通学からキャンパスライフまでこの学生証 1 枚で快適に過ごせるようになりました。



イクスカ付学生証



● お知らせ ●

一番町ロビーリニューアル

「創造から統合へー仙台からの発進」をスローガンとして掲げ、社会との融合を目指す本学では、地域と大学が一体となり、文化と産業の発展および優れた人材の育成に努めるため、平成15年に「一番町ロビー」を開設しました。ギャラリーとホールがあり、企画や展示等とおし、本学学生や卒業生、市民の方々との交流（接点）の場として利用されていますが、開設から13年の今年4月にリニューアルしました。リニューアル内容は、1階ギャラリーに変更はありませんが、学内外講師による「学術講演会」や「シンポジウム」、そして「市民公開講座」等の会場となるホールを4階から2階へ移し、ギャラリーからホールへの導線が大変良くなりました。また、ホールの機能として、COC関連事業と本学同窓会事務局としての役割も兼ねることとなり、本同窓会の活動拠点としても利用できるようになりました。

これまで550回を超える企画展示や講演・講座を開催してきましたが、今後も「東北工業大学の“まちなか”の拠点」として多くの方々に利用していただけますよう期待します。仙台市地下鉄東西線 青葉通一番町駅から徒歩約3分。是非、足をお運びください。



南町通り側に同窓会の看板を設置

OB 企業と OB の求職者マッチング構想

以前より懸案としておりました「OB企業とOBの求職者を引き合わせる事が出来ないか。」の構想について7月の役員会にて具体化に向け話し合われました。

簡単に説明させていただきますと同窓会のホームページを利用します。例えばOBの求職者が就職先を探していた場合は下記の流れとなります。

①同窓会のホームページのTOPページのメニューに求人情報ボタンを設けます。

②求人情報ボタンをクリックすると複数の求人情報一覧ページが現れます。

③希望するOB企業様をクリックするとその企業の詳しい情報が現れます。

④希望する内容と合致した場合は申込フォームにて送信します。

当然、OB企業様の求職者申し込みフォームも設置されております。

この構想を実現するためには職業紹介としての手続きや責任者講習の受講など様々な手順が必要となり実施するまで、まだまだ時間は掛かります。

しかし、同窓会として卒業生への大きな支援の役割を果たす企画であると認識しており何とか実現が出来るよう今後も話し合いの場を設けていきます。

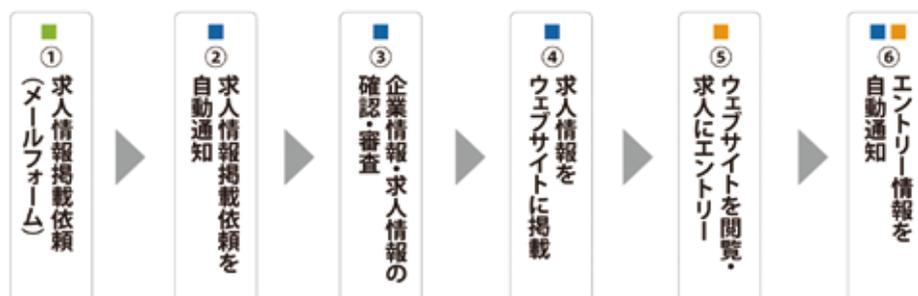
OB・OGの皆様から忌憚のないご意見をお待ちしております。

【全体の流れ】

■東北工業大学同窓会様

■企業様

■ユーザー(同窓生)



工大での31年



都市マネジメント学科
村井 貞規 (むらい さだのり) 氏
 1972年 東北大学工学部土木工学科 卒業
 1977年 東北大学工学部土木工学科 助手
 1985年 東北工業大学工学部土木工学科 助教授
 土木工学科・工学研究科土木工学専攻 教授
 建設システム工学科・工学研究科土木工学専攻 教授 専攻主任
 都市マネジメント学科・工学研究科土木工学専攻 教授 専攻主任
 2016年 退職 本学名誉教授

今年3月に工学部都市マネジメント学科を退職してほぼ5か月が過ぎました。退職して自由度は大幅に増しましたが、週2日非常勤講師を務め、それ以外は残っている資料の整理や外部委員会への出席など、基本的には退職前とほぼ変わらない日々を送っています。

工大に赴任したのが昭和60年ですから31年が経過したことになります。土木工学科(当時)に赴任した当初は2年生の「構造力学」と「地域計画」「土木施工II(計画数学)」を担当しました。「地域計画」の講義では200人を超える学生を前に旧1号館4階の大教室で黒板を上げ下げしながら板書したことが懐かしく思い出されます。その後は計画系の科目を新任教員に徐々に委ね、最後の年は1年から3年までの「構造力学」全科目と「交通工学」、そして大学院科目を担当しました。

初期の研修は研究室としてはほとんど何もない0からのスタートでした。研修生には学科共通の光弾性装置や学生用に購入した1台のパソコンを利用して、舗装構造や交通に関する卒論テーマに取り組んでもらいました。当時は1研究室あたりの学生数も多く、舗装力学、都市計画、街路景観など、ある程度学生の要望に応えるテーマなどを設定できることをアピールした時期もありました。この状況を大きく変えたのが平成9年度にスタートしたハイテクリサーチセンターです。これにより東北地方の大学ではただ一つのアスファルト試験室を立ち上げたことにより研修生の半分は舗装材料としてのアスファルトやアスファルト混合物の再生を卒論テーマとするようになり、卒業後さらに

大学院で学びたいという学生も増えました。

研修のもう一つの柱である交通関連のテーマは、災害が「道路ネットワークに及ぼす影響の分析」で、行政に協力してもらいながら「北海道南西沖地震」、「阪神・淡路大震災」、「新潟県中越地震」、「能登半島地震」、「新潟県中越沖地震」、「岩手・宮城内陸地震」など相次いで発生する大規模災害による道路被害と継時的な回復状況を分析してきました。そうした中で平成23年に「東日本大震災」が起こり、研修の最後のテーマになりました。特に「東日本大震災」については道路被害のみでなく空港や鉄道さらに建築物などについても現地調査を実施し、その報告を学科HPオリジナルサイト「東北地方太平洋沖地震」に掲載していますのでご覧ください。

退職後は客員研究員として上述の研究テーマについて改めて取り組んでいきたいと思っています。最後に、工大生活31年間の職務を全うできたことについて、これまで関係した学生、院生、大学教職員の皆様に深甚の謝意を表します。



学科サイト (<http://www.jicoojin.com/CEM/>)

中国での国際シンポジウムと 国際会議に参加して

建築学科
高橋 恒夫 (たかはし つねお) 氏
1971年 東北工業大学建築学科卒業
1978年 東北工業大学建築学科講師
1995年 東北工業大学建築学科教授
2016年 退職 本学名誉教授

今年の1月にアメリカのデラウェア大学美術史学部のヴィマリン・ルジヴァチャラク准教授から、中国で開催される学会で、東日本大震災における歴史的建造物の被害状況と保存、まちづくりなどについての講演依頼のメールをいただきました。彼女は三年前に東北の被災地を訪れ、是非、今回の学会で講演してもらえ建築歴史の研究者をさがしていたそうです。メールのやり取りで次第に学会の詳細が明らかになりました。学会とは国際シンポジウムと国際会議のことで、前者は4月5日から6日に北京の清華大学で開催、テーマは「Vernacular + Heritage」、後者は4月7日から8日に河南省新県での開催、テーマは「中国新県鄉村復興」、どちらも同時通訳がつくので英語を話さなくても大丈夫とのことでした。

4月3日に仙台発の上海経由北京行きで出発しました。北京の国際空港ではボランティア通訳の秦さん(瀋陽にお住まい・19歳で群馬大学に留学・名古屋と大阪の建設会社に勤務・3年前に中国に戻り結婚)が迎にきてくれて、無事ホテルにチェックインできました。4日はフリーでしたので秦さんの案内で清華大学のキャンパスを見学しました。建築学部エントランスホールの左右の壁には中国伝統構法の隅扇垂木と古代ギリシャ建築の柱頭オーダーのレリーフが対峙していたのが印象的でした。5日は13時から清華大学講堂で国際シンポジウムが開催されました。参加国はアメリカ、フランス、イタリア、オーストラリア、タイ、中国、日本の7か国でした。開会の挨拶はタイ王国のマハチャクリシンドン妃が中国語で話されました。私は岩手県陸前高田市の歴史的建造物の津波による被害と復興について、同妃の同席の時間に講演するという光栄をいただき、「よみがえる陸前高田市の今泉集落」の資料集も献本することができました。初日の講演日程終了後、ホテルで夕食会があり、各国の講演者と通訳が大きな円形テーブルに着き、懇談しました。私の講演につい



ヴィマリンさんと河南省新県西河村の宿舎で

て、清華大学の教授から質問があり、「陸前高田市ではどうしてかさ上げしてまで、その地にまちづくりをするのか」とか「約17メートルの津波であったのに、どうしてかさ上げは12メートルでよいのか」など、これまで日本ではなかった質問があり、とまどいました。6日の午後から河南省新県への移動です。北京西駅から新幹線で4時間、高速バスで2時間、公用車で1時間、7時間かけて国際会議開催地の西河村に到着しました。同村にこれほどの外国人が来るのは初めてだったので、多くの行政関係者の歓迎を受けました。私は8日に陸前高田市の震災前後の今泉集落について講演をしました。このような場所で国際会議を開催したのは、清華大学でこの村の集落について調査と保存活動をしており、将来、このような里山を外国人向けの観光資源にしたいという意図からとのことでした。

初めての国際シンポジウムと国際会議への参加でしたが、同時通訳でしたので、言葉の不自由さは感じませんでした。また、中国では建築歴史の研究分野でも、国際化が進んでいることを特に痛感して帰国しました。なお、上記の国際シンポジウムと国際会議の講演動画は下記アドレスからアクセスできます。

<http://youtube.com/channel/UCNsCxnu5gpFNSsXiHzRksg>

～工大のこれまでと、これから～



工大時代に培ったのは仲間。
 学生を現場に、海外に。
 体験し失敗し、OB OGとの交流が
 モチベーションをアップさせる。



平成 28 年 8 月 8 日 (月)
 於・東北工業大学図書館
 東北工業大学史料センター



出席者

- | | |
|------------------|----------------------|
| 東北工業大学学長 | 今 野 弘 (S46 土木工学科卒) |
| (株)ケディカ会長 | 三 浦 修 市 (S45 電子工学科卒) |
| (株)黄金工務店代表取締役 | 黄金崎 勉 (S55 建築学科卒) |
| 宮城県産業技術総合センター研究員 | 畠 純 子 (H9 工業意匠学科卒) |
| 長町校舎事務室事務長補佐 | 伊 神 和 希 (H7 通信工学科卒) |

コーディネーター

- | | |
|--------------|-----------------------|
| ライフデザイン学部長教授 | 菊 地 良 覺 (S51 工業意匠学科卒) |
|--------------|-----------------------|

今野学長 工大同窓会と卒業生には、いろんな意味で大学を支えてもらい、改めてお礼を申し上げます。2年前に工大創立50周年を迎え、これからの半世紀をどのように運営していくのか、学生の教育をどうしていくのか、教職員の研究や活動環境をどう構築していくのか、後援会も含めて、問われる半世紀だと思います。

私も皆さんと同じ卒業生の一人として、微力ではありますが、努力していきたいと思います。学長と言うよりもOB O Gのメンバーの一人として発言したいと思っています。

本日は、青森からもお出でいただきありがとうございます。ありがとうございました。

菊地 今日、お話したいことはふたつあります。自己紹介をいただいてから、一つは、在学時代に印象に残っていること、卒業後の工大との関わりについてです。二つ目に工大に期待するもの、学生へのメッセージなどをお話しさせていただきます。

この史料センターは、今年7月にオープンしたばかりです。同窓生も3万数千名を数え、工大と同窓会の歩みを学生や卒業生に知ってもらい、卒業生の皆様のサポートもしていきたいと考えています。今日は、忌憚のないお話をいただければと思います。最初に、三浦様から。

工大在学時代とその後

三浦 私が在学したのは昭和41～44年です。当時は工大も創立したばかりで、先輩も同窓生も卒業生もいなかったもので、当時は、あまり大きなことを考えたことはなかったですね。大学に入って仲間を作ろうと、私はバレー部を設立したんです。4年間続け、大学の二部リーグまでいってリーグ戦を戦ったので、スポーツ面では目的を達したと思います。

また日本一周をしたかったんですね。入学した夏にアルバイトして、乗用車のコロナを5万円で購入し、4人で20日間で鹿児島まで達し、日本一周を成功させました。高速道路のなかった時代、1日平均300キロ走りました。当時は学校とかお寺とか、泊まれたんですね。

勉学の方はさほど成果もなかったのですが、各先生たちも若く、平館先生の研究室に入り、半導体の素子を作っていました。東北大に行った人見先生は研究室の後輩で、放射線の検出装置を研究し、3・11の東日本大震災の時には、活躍したらしいです。

そんな関係もあり、私の会社はメッキの会社です。日本の産業が電子から自動車、半導体と進むにつれ大きくなり、国内150名、海外、主にフィリピンですが300名の規模になっています。

今の主流は携帯電話のカメラのメッキです。世界シェアの70%の処理をしているオンリーワンの会社です。又、国内大手電子部品メーカーなどの仕事を、集中してやっています。

産業技術総合センターさんにも、お世話になっています。東北大の豊島先生のQC活動を、東北で

最初に始めています。毎年、補助金をいただいているのですが、来年は岩手県北上の工場に機械が入ります。

卒業後の工大との関わりでは、息子が東北工業大学の通信工学科を卒業しました。

会社に東北工業大学の卒業生が5人おります。3人は管理職です。東北の各大学、秋田大、岩手大、山形大、学院大からも就職しております。

黄金崎 昭和51入学、55年卒です。鈴谷研究室でお世話になりました。

実家が建設業をしていたので、普通高校だったのですが、何となく親を思いまして工大に来ました。受験の時にはまだ市電が走っていましたね。4月の入学時には廃止になって、残念でした。

入学したころはまだ学生運動の名残がありまして、ヘルメット学生も見かけましたね。

あの頃は目標もなく、なんとなく学生生活を送っていました。仲間が増えて、授業よりも仲間と遊んでいる方が中心だった気がします。平和的な時代でした。

3年生の時、宮城県沖地震に遭遇しました。ちょうど仙台駅前にいたのですが、エンドチェーンから人が逃げ出したのを見ました。屋上の空冷タワー(?)のタンクから水があふれ出て、驚いたことを覚えています。2日間ぐらい、停電断水しましたね。

今野学長 あの時、工大は急ごしらえの仮設の教室を作り、1日も休講しなかったんですよ(正確には6月13日の一日のみ休校:工大広報号外昭和53年6月16日(金)発行より)。すごいことですよ。

黄金崎 3・11では、工大の学生はボランティアで復興支援の手伝いなどされていますが、わたしたちはあまりやった記憶が薄いですね、それが少し残念です。それだけ今の学生は、社会との関わりを重視した授業をしているんだなと思いましたね。



三浦 修 市

(昭和45年電子工学科卒)



黄金崎 勉
(昭和55年建築学科卒)

大学との関係で言えば、現在、同窓会の青森支部長を拝命しております。私は11期生の卒業で、男4人兄弟ですが、4番目の弟も工大ですし、私の息子二人も工大の建築を卒業させていただきました。

そういうことでお世話になった分、何かお返ししなくては

と思い、活動しているわけです。

伊神 平成3年入学、6年度に卒業と言うことになります。

入学した時はバブル期の後半で、在学中にはじけたようで、先輩たちの話とは全然違って就職活動が思うようにいかず、みんな苦労していました。たまたま工大の職員募集があり、そのまま現在に至っています。

在学中は斎藤研究室で、ちょうどアナログからデジタルに移行する時代、工業化から情報化の時代でした。在学中はワープロが主流だったのに、卒業したころにはPCが普及していましたね。

畠 宮城県産業技術総合センターでは、県内の企業さんへの技術的な支援を行うということで、私は設計とデザインの支援を行っています。入学のきっかけはプロダクトデザインのような「モノづくり」に携わりたと思った際、その当時「工業意匠」学科は千葉大と工大しかなく、地元のこちらにお世話になった次第です。

在学中には、山下先生がよく言っていた「社会に出たら、女性もちゃんと経済力を持って社会に貢献し、どんな時代でも自立しなさい。もう男性に頼る時代じゃないよ」という言葉を胸に、経済力を得るために、仕事を続けようと思いました。

最初はアイリスオーヤマで新商品開発をし、その後、インターネットの広告代理店やアマゾンサイトにおいてサイト構築の業務を行った後、現在に至っています。今の職場も、いろんな企業の社長さんたちとお話しをしながらモノづくりを行っているので、いつも勉強の日々です。

工大との関わりでは、菊地先生をはじめ先生方ともお付き合いがあり、毎年2年生の学生に就職ガイダンスの一環として、お話をさせていただいております。就職の事とか、社会人になったらこうだよ

とか、卒業したらこんなことができるんだよとか。そういうきっかけになるようなことを話しています。

また毎年、インターシップを2～3名、受け入れています。センターの仕事を手伝ってもらっています。

史料センターと今後への期待

菊地 ありがとうございました。

次に、感想を含めて、工大に期待するものなど、お話しいただきます。史料センターを活用して欲しいという、前理事長の強い希望もありますので、ここをどう活用していくのか、セミナーを開くとか、あっていいと思います。こんな活用方法があるとかも、お聞かせ願えればと思います。本学に関係するようなデータとか、関係する先生たちの研究も展示したいとなると、本当はこのスペースだけでは足りないですね。

また、これからの学生に望みたいことなどもお話しください。

三浦 東北福祉大には、仙山線に東北福祉大駅という駅があるんですね。そこは大学の建物ですが普通の市民にもオープンになっていて、喫茶店があり、大学関係のものが展示してあるんですね。開かれた空間ですごくよかったです。

工大の教員でも退職なさって社会に貢献している方々はたくさんいるでしょう。そういう人たちの展示が欲しいですね。文章だけでなく、具体的な形ある物で、触ったり肌で感じられるものですね。

黄金崎 最近、できたばかりの学科が多くなっていますね。私は卒業後、会社を経営する立場になって、学生時代に経営学的なものを学ぶ機会がなかったことが残念ですね。技術的なことは社会に出ると自然に身につくんですが、経済学とか経営学は、なかなか勉強する機会が無いし、今は「経営コミュニケーション」ですか、すばらしい学科ができていますので、私の時代でも、そういう授業を受講できたら良かったかなと感じています。

菊地 当時も「経営工学」というのがありましたが、専門学科でないと受講できなかったですかね。実際に社長なんかすると、金融とか、マネジメントとか、借金の仕方など(笑)、実務的な知識が必要となってきます。社長業とはオールラウンドプレイヤーですから。そのへん、畠さんはどうですか、工大への要望という点では。

畠 センターと工大は、協定を結んでいて、相互活用できるようになっています。地域に根差したものをするという事になっていますから、もう少し学生さんたちのアイデアとか、バイタリティーとか、人的なもの、我々と企業さんと大学とをもう少し潤滑に相互活用できたらいいなと思っています。

伊神 自分たちも、企画しなくちゃ、マネジメントしなくちゃとは思っていますが、具体的には、ほんやりとしたイメージしかないのが現状です。

現代ほど大学に地域貢献が求められている時代はなかったと思います。それをやらなければ、大学の存在



伊神 和希
(平成7年通信工学科卒)

価値が無くなるというくらいです。昔からよく言われていますが、授業のカリキュラムの中身も、地域の企業などの意見を取り入れてとか、強く感じてはいます。

菊地 地域協力、実学的なもの、人間力というものを、実践を通して高めていくことでしょ

うか。学生も、現場に連れて行くと分かり易いんですね。例えば被災した現場に行くと少し顔色が変わりますね。職場に連れていくでも、具体的な物を作るでも、そう言えますね。

三浦 留学生は今、何名くらい？

菊地 海外からの留学生は十数名といったところでしょうか。海外に留学している学生はおりません。

三浦 国際化の時代に、留学生の受け入れがちょっと少ないですね。東北大学の「サイエンスキャンパス」に、私どもも参加していますが、子どもたちを対象にした講座をやっています。

一昨日、わが社でも小学生を30人くらい会社に呼んで、ドリルで穴を開け配線をして、メッキの仕方を教えたんですね。でも本音は親が目的なんです。今会社がどんなことをしているのか、きれいに整理されていますねとお褒めの言葉をいただきましたが、社会貢献活動をしながら、親御さんたちの意見を参考にしたいんですね。

フィリピンでも、日本から寄付を集めて幼稚園を作りました。25人の園児を集めて運営しています。

仙台では「青葉少年少女発明クラブ」というのがあります。英語で「モノづくり」を教えています。小学4、5、6年生の子どもたちが英語で話しながらやるんです。子どもたちを対象にしていますが、これはその子の親御さんたちに口コミで我が企業がどういう会社なのか知ってもらい、信頼してもらい、期待できると思わせることに繋がりたいわけなんです。

菊地 確かに、工大でもオープンキャンパスをすると、親御さんが来ますね。黄金崎さんの息子さんも工大に入ったというのは、やはり建築の良さを、親の姿を見て、自分もと思ったのでしょうかね。

黄金崎 どうでしょうか(笑)。自然にそうなったのかな。私も親からは好きなことをして良いと言われていましたが。高校3年の時、家を継ぐ道しかないのかなと思って工大にきたので。

三浦 うちの息子は親と逆のことをしている方が多いみたいですね。親と同じことをしたくない、大学は同じだけど、反面教師になってますね。

菊地 親と同じ年齢になると、親の苦勞もわかってくるのではないのでしょうか。

黄金崎 いや、親と同じ苦勞はさせたくないと思います。

三浦 苦勞させなくちゃだめだよ(笑)。私は、「失敗しろ」と言ってます。失敗しないのはおかしいでしょう。東北大学の講演会で、工学院大学教授の畑村洋太郎教授が「失敗学」で言っていました。人間は失敗しないと成長しないと思います。今の学生は失敗を怖がる場所がありますね。

菊地 免疫がないとか、雑学がないし、「遊学」というらしいですが、遊んでないから広い視野が育たない。

三浦 スマホで自分の好きな情報しか見ない。私達は新聞や雑誌や、他の情報源で見ているから。私もポケモンをやってみます(笑)。若い人と話するには



菊地 良覺
(ライフデザイン学部長)
コーディネーター

LINEもポケモンも、必要ならサンバを見にもいきます。そういうセンサーを常に持っていなければならないんです。

畠 学生には英語を勉強して欲しいですね。私も社会人になって海外に行けと言われて何度か行きましたが、最初は海外のメーカーの方々とコミュニケーションがうまくとれず、もどかしさを感じました。それで英会話を始め、今も継続していて、もう一人でも海外に行けるようになりました。

若い時に英語力を身に付けていないと、文化の違う人や考え方の違う人とやっていくことを経験できないですね。身内の日本人とだけ付き合っていたら、焦らないと思うんです。

今野学長 国際交流に関して言うと、本学が進める国際交流は、学生が異文化、外国人と交流することで国際感覚を身に付けることを主体としています（詳しくは本学ホームページ「国際交流情報サイト」<http://www.intl.tohtech.ac.jp/>参照）。今は世界の10大学、ベトナムやタイなどアジアが多いですが、アメリカがひとつ、ヨーロッパはパリがひとつなどですが、あちらを訪れたり、向こうから日本を訪れたりするんですね。そういうところに工大の学生も加わって、彼らと話す英語をもっと学びたいと、もっとコミュニケーションしたいけど、話せないから歯がゆいんですよ。それでもっと英語を勉強したいと思うんですね。彼らは日本の学生よりも英語が堪能ですから。そういう体験をすると、モチベーションが上がって、真剣さが違ってくるんですね。いずれにしろ、何か他のことで興味を持ってやり始めると違います。そういう機会を大学として多く作りたいとは思っています。

毎年、本学学生を20人くらい海外の学術交流協定を締結している大学に派遣しています。一週間から長くて2か月程度ですが、研修を受けて帰ってくるんですね。一度行った学生は、もう一度行きたいと言いますね。国際交流は何年も行かないとダメだというわけではなく、経験を積むということが大事なんです。五感で感じた時に、本気になって勉強する気になるんです。短い期間しか一緒に過ごさないので、別れを惜し



今野 弘
(学長)

んで、帰る時にはみんな泣いて帰ってきますよ。そういう体験を多くする、そういう機会を多くすることが大事です。将来は40人程度に拡大することを決めています。

私もタイに1年以上いましたから、もうタイが第二の故郷です。

学生時代に長期滞在を経験することは簡単ではないですが、そういう機会を学生に与えられる環境を整えたいと思っています。本学の国際化ビジョンでは今の10大学を15大学に拡大する方向で、やっていきたいと思っています。

現地に行ってみる、何か実際に作ってみる、自分で感じてみる、そういうことが大事だと思っています。会社に入って仕事したり研究したりするときに、しみ込んだ体験がいつか役に立つんです。

私自身がそうなんです。昔、物を作って遊んでいた体験が、自分は物を作ることが好きなんじゃないかと思ひ、高校の時から専門学科に入ったのです。小さい時には、自分が何に向いているのかわからないですが、少なくとも工大に来ている学生たちは、志望学科を決めてきているのだから、将来の専門分野は確定しているけれども、どのような仕事に就くのが良いかはよくわからない。私は大学にいた時に土木のいろんなこと(職種)をほとんどやりました。公務員もゼネコンも測量会社などもしてみました。それを部失敗して(笑)、一生続けたい職種に出会えませんでした。それはすべて良い体験でした。

三浦 子どもたちが良い経験をする、一度ここを訪れたりして、良いところだという体験をすると良いと思います。フィリピンで1年過ごせば英語もうまくなります。私共の会社でも、高卒の社員が現地に行っても、日本人が3人しかいませんから、嫌でも英語話すしかないで、スピーキングできるようになります。

現地企業で青山大、日大をでている女性が2人いますが、みんな現地の人と結婚していますね。日本人女性はもてるんですよ。

韓国では留学先で人気があるのは、アメリカ、オーストラリアに次いで3番目にフィリピンなんですね。近くて安いからです。

畠 フィリピンの英語は独特の言い回しらしいですね。私も知り合いがいて、4、5日ですが滞在したことがあって、普通に英語が通じましたね。現地では韓国人留学生が多いらしく、よく韓国人と間違えられました。「アニョハセヨ」とあいさつされて。現地語と英語をうまく使い分けてる、と言う印象を受けました。

三浦さんところのフィリピンで、長期のインターシップの受け入れはどうですか。

三浦 短期のインターシップなら良いですが。現地にはコールセンターが沢山あります。青森にも英語のコールセンターができるというので、視察に行きたいと思っています。

菊地 英語の勉強するならフィリピンが一番良いとされているようですね。eラーニングもあるから。

畠 それとコミュニケーション能力を高める必要があると叫ばれていますが、同世代だけでなく世代を超えたコミュニケーション能力が必要だと思えます。どうしてもスマホとかネットワークで囲い込みをしてしまうので、年代の違う人とコミュニケーションをとることも必要になっています。

菊地 課外活動や社会貢献活動のボランティア分野で、三浦会長は今もバレー部とタッグを組んでいるでしょう。チームワークや組織で、やっていくことも大事なんですね。デザインだって一人のデザイナーだけでなく、みんなの力でひとつにまとめているわけですから。

学生に対するメッセージという意味で、語学力と、世代間を越えたつきあい、様々な世代、多彩な人材とのコミュニケーション能力が必要なんだということです。

畠 私は学生への講義の最後に、「趣味を持ってください」と言います。趣味は年齢とか仕事の枠とかを超えて、ネットワークが作れるし、仕事では出会わないような人ともおつきあいできますから。私はスノーボードじゃなくスキーが趣味ですが、色々活動していると幅が広がりますね。企業の枠を超えたお話も聞けますし、勉強になります。仕事にもプラスになっています。

菊地 最後に学長の方から、まとめていただいて。

今野学長 経営を勉強したいというお話がありました。一般に社会人でもう一度学びたいという方は「社会人入学」という施策があります。卒業生に限って言えば、入学金、授業料減免そして施設設備費の免除などの特典を検討中です。

そういう方々が、学生と一緒に授業を受けると、学生にとっても効果があります。もっと勉強したいという社会人は、学生よりも一生懸命なんですね。そういうことは学生にとっても刺激になります。工大は「地域志向教育」(本学ホームページ <http://www.coc.tohtech.ac.jp/> 参照) を実施していますので、地域の方々やOB、OGの方々にも、参加していただいくことを、これからも考えていきたい

です。

本学はいろいろなところと協定を結んでいます。コネクションがあると、つながり易いけれど広がりにくくもなりますが、広がりができるような交流会にしていきたいと思えます。学界では評価されている工大の先生が、よく知られていなかったりしていま



畠 純子
(平成9年工業意匠学科卒)

す。地域にも知られていない。本学の地域連携センターなどを活用してもっと広くアピールしていこうと思います。

同じように学生やそのお父さんお母さんも、テレビに出てくる会社ばかりが良いと思っているようですが、地域にも三浦さんところの様に、素晴らしい会社があることをわかっていません。毎年でなくとも、継続的に卒業生を迎えてくれる企業は安心だし、入社したOBにとっても、何年かしたら後輩が入社してくるというのは良いことです。「良い会社」とは何か、良い会社の考え方を、お父さんお母さんたちに伝えていきたいと思えます。

工大は地方の就職率が高いと言われています。それと課外活動を通して、就職先を見つけるという点でも、どこで活かすのか、整備していきます。父母懇もありますので、お父さんお母さんたちとの話し合いをきちんとしながら、そして学生の要望を聞きながら、社会に入れるようにしていきます。

菊地 現在2名の社会人学生がおります。ひとりは社長、ひとりは高校教師ですが、見ていると、在校生も一生懸命になります。

今野学長 大学は1科目15回の授業ですが、内3回ぐらい、OBOGの方にお話をお願いしてもらっている科目が多くあります。学生は非常に熱心に聞いてくれます。自分も将来、あんな風になれるんだという自信につながります。これからも、同窓会および同窓生の皆様のご協力を得て教育、研究を進めていきますので、今後ともよろしくお願ひします。

菊地 長時間、ありがとうございました。

学生会員の活躍

【応援団】

この度は応援団の学生服製作費を援助していただきありがとうございます。

現在応援団は、北海道科学大学定期戦と仙台六大学野球秋季リーグ戦に向けて日々練習を続けております。女子団員は私1人ですが、女性が活躍できる場を広げていきたいと思い、応援団に入団いたしました。男子団員と一緒にパワフルに活動しております。これからも練習を積み重ね、選手の心に届くような応援をしていきたいと思っております。

今後の目標としては、男女問わず団員を増やし、さらなる活動の場を広げていくことです。昨年度は大学祭や大河原商業祭りといったイベントにも参加しました。今後も応援団の知名度を上げるために、様々なイベントに積極的に参加していこうと考えております。

これからも、応援団として、選手をはじめ多くの人々にエールを届けていきたいです。

【チアリーダー部】

この度は、私たちチアリーダー部にユニフォームを寄贈していただき、心より感謝申し上げます。部員一同、大変嬉しい所存でございます。今年の仙台六大学野球の春季リーグ戦の応援に行った際は、あのユニフォームが大活躍しました。同窓会の皆様への感謝を忘れず、これからも大切にしていきたいと思っております。私たちチアリーダー部は大学内外を問わず、幅広く活動しています。この間は西勝山の町内会のお祭りにてオープニングを飾らせていただきました。学外の方々の前で踊ることは、私たちのパフォーマンスを見ていただくと同時に、東北工業大学のPRにも繋がると思っておりますので、とても嬉しく思います。10月には本大学建築学科の50周年記念イベントにてもパフォーマンスする機会を頂きました。そこでも、私たちの日頃の練習の成果と、東北工業大学の学生の活気を伝えられるように精一杯パフォーマンスしたいと、今から意気込んでいます。他にも仙台六大学野球秋季リーグ戦、大学祭、八木山のイベントへの参加など沢山の方々の前でパフォーマンスする機会があるので、工大の名に恥じない演技をし、私たちの演技で一人でも多くの人に、東北工業大学を知ってもらえるように、良いと思ってもらえるように、これからも活動していきます。この度は誠に有難うございました。



【青森支部】

平成 28 年度
青森県支部活動報告

向井 務 (むかい つとむ) 氏
1982年 土木工学科卒業(12回生・今野研究室)
現 在 株式会社タケナカ

当日は弘前市・十和田市からも会員が駆けつけ、同窓会会員 13 名 学長・同窓会長含む学校関係者 4 名にて、次年度に開催を予定しているシンポジウムについての打合せを行い、さらに、支部活動について 2 時間以上に渡り様々な意見交換が行われました。

私は 35 年前、今野研究室の 2 回生で卒業研究の一年間、今野学長にご指導頂きました。当時の今野学長は今と変わらず日本酒がお好きで、温厚で親しみやすい先生でした。ただあまり冗談が通じるタイプではなく何事にも真剣に答えてくるので、ちょっとした話が大笑談な話しになった事も記憶しております。

また、今年度 28 年度は建築学科 50 周年記念の節目の年です。青森県支部からお祝いに駆けつけたと思っています。



【北海道支部】

『東北工業大学同窓会北海道
支部だより No.1』の発行

山口 龍彦 (やまぐち たつひこ) 氏
1974年 土木工学科卒業(4回生・大沼研究室)
1974年～2011年 札幌市役所勤務
2011年 3月退職

東北工業大学同窓生の皆様に置かれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

本年は北海道科学大学(旧北海道工業大学)との運動部の交流戦が札幌で開催されます。隔年で行われるこの大会に合わせ、大学関係者の方々とサッポロビール園で行う懇親会は恒例になっており、札幌近郊に居住する方々の参加を得て、毎回、大学の近況を報告いただいたり、学生時代の思い出話など、楽しい一時を過ごさせていただいております。今年は 8 月 2 3 日に開催され、この工大人が発行される時期には終了しておりますが、今年の新試みといたしまして、6 月上旬に北海道内にお住いの同窓生の皆様に『北海道支部だより No.1』(618 名)を郵送させていただき、北海道支部の存在を認識して頂くとともに、隔年で行われている大学との懇親会へのご出席をお願いしたところであります。10 月に仙台で行われる同窓会総会において、大勢の参加者があった報告が出来ることを期待しているところです。

また、支部だよりのみでなく、情報の提供を『東北工業大学ホームページ』や『東北工業大学フェースブック』を活用させていただくことをお知らせし、広大な北海道支部内の同窓生の交流の活性化を図っていきたく考えているところです。

また、『支部だより』については、パソコン等の環境下でない方もいらっしゃると思いますので、毎年一回は発行して行く予定であります。



写真は前回のサッポロビール園にて



【新潟支部】

和（輪）（環）以て貴しとなす

動山 憲一（どうやま けんいち）氏
 1976年 土木工学科卒業（6回生・盛合研究室）
 現在 学校法人 みのり学園
 認定こども園 長岡みのり幼稚園

平成 28 年 6 月 5 日（日）第 20 回東北工業大学同窓会新潟県支部総会が新潟市内のホテルで開催されました。

今回も、恒例としております後援会新潟県支部との同日開催とし、総会終了後には両支部合同の懇親会を実施し本学の職員、保護者、OBの情報交換の場となりました。ご常連のほか、初めて参加される会員の顔を数名見ることができ、出席者の減少が憂慮されるなか、新たな風が吹いてきたように感じており、これも日ごろの支部活動の賜物と自負しています。

新潟支部総会も 20 回を迎えることができ、今回の総会で 9 月 3 日（土）の日程での記念祝賀会の開催が承認されました。

設立の精神に則り、更なる盛り上りを摸索しつつ記念祝賀会を企画、準備に余念のない日々を送っている昨今です。

さて、この祝賀会の企画に当たり当支部及び本学の沿革を時折の資料を辿り、式典のキーワードを摸索しつつ企画を練っておりました。その中で、今野弘本学学長の入学式式辞の中に本学名誉教授吉田賢抗先生が提唱する「いい人間をめざせ」という行が目に入り工大人としての気概を今更ではあるが再認識をしたところです。

設立 20 周年を迎える記念祝賀会に、この「いい人間をめざせ」の具現化目指し和・輪・環・を以って盛大な集いとし、新たなネットワークの構築と更なり母校の発展に繋がるよう期待いたし、支部活動報告とします。



28.6.5 新潟支部支部総会
後援会合同懇親会



28.7.30 同窓会新潟支部
20 周年祝う会準備会

【岩手支部北上地域】

同窓会活動報告



佐藤 功（さとう こう）氏
 1959年 宮城県刈田郡七ヶ宿生まれ
 1982年 建築学科卒業（13回生・阿部研究室）
 現在 太陽住宅株式会社 代表取締役

活動状況のご報告をさせていただきます。

岩手県は同窓生の集いとして父母後援会を招いて大学主催で行っておりますが、北上支部は毎年 2 月第三金曜日を同窓会の日と定め会を重ねております。

建築学科、土木学科 1 回生から平成 20 年代の卒業生まで学科を超え 20 数名程度ですが、楽しい交流の場となって恒例化しております。地域の先輩に地域の情報を気兼ねなく教えて頂く意味では大変よい場です。同窓会旗を作り、会の終わりに全員で学歌を唱和しています。大学の同窓会からは秋元会長をはじめ事務局からもお越し頂き大学の現況の報告を受け、在学当時と今の大学の違いに驚いたりもしております。

先の大学創立 50 周年式典へ 9 名で参加させていただきました。道中マイクロバスで移動となりましたが学生時代を思い出し楽しい同窓会旅行となりました。

北上支部は今後も会を重ねるに当たり、お近くの同窓生皆様の連絡をお待ちします。



【職域支部】

宮城県内教職員 「高原会（たかはらかい）」 職域支部設立総会



鈴木 伸一（すずき しんいち）氏
1969年 電子工学科卒（2回生・船田研究室）
現在 教職センター非常勤講師

教職課程部教授、故宇野量介先生が本学卒業教職の会「高原会」を昭和49年に設立され、矢内論元教授には、多面にわたりご指導をいただき、今日に至っています。しばらく休止しておりましたが、東北工業大学創立50周年を期に、同窓会職域支部会に参加する事となりました。同窓会長と高原会5名が発起人となり、6月25日（土）16時から、昭和44年度から平成27年度までの卒業生29名の出席で、八木山キャンパス1号館3階教室を会場に設立総会を開催しました。引き続き、学長をはじめ14名の大学教職員の先生方・同窓会役員3名と会員の交流・親睦を図るため、懇親会を持ちました。



【福島の集い】

第4回福島県東北工業大学 同窓生の集い

佐藤 廣（さとう ひろし）氏
1973年 建築学科卒業（4回生・藤田佐賀研究室）
現在 株式会社いわきティーワンビル
代表取締役

2015年11月7日（土）、福島県内の土木・建築同窓生50名に加え本部から秋元俊通会長はじめ役員と事務局員計9名、ご来賓として渡邊浩文工務部長・建築学科教授、石井敏建築学科長の2名、更に、いわき出身国会議員・岩城光英法務大臣にもサプライズ参加を賜わり総勢60名以上の「第4回福島県同窓生の集い」が、いわきワシントンホテル椿山荘にて開催することができました。

秋元同窓会長はじめ岩城法務大臣、ご来賓の方々には、多忙のなか参加を賜り、改めて、感謝と敬意を表すると共に、同窓生の皆さんには、卒業以来の交流の機会であった方もおり、終始和やかに懇親を深められ楽しい一時を過ごされたことを嬉しく思う次第です。

さて、本市在住の同窓生は、東日本大震災及び原発事故発生から5年以上が経過し、復旧・復興及び原発廃炉関連企業や原発事故に伴う避難者等の住居や施設確保の不動産の活発な動きの中、土木・建築分野において直接・間接的に関わりを持ち活躍されている方も多く同窓生の集いが、本市で開催されたことは工大人として非常に意義深いものと考えます。

また、本市に集った同窓生の皆さんにも、被災地をはじめ各地域の各界各層において、ご活躍されていることと思いますが、これまで工大人が構築してきたネットワークと英知を最大限に活用し、更に、地域社会へ貢献されることを期待するものです。

結びに、大学及び会員各位の益々のご隆盛とご健勝をご祈念し、いわきで又の開催を楽しみにしております。



【東京の集い】

第1回関東圏東北工業大学同窓生の集い

西野 博貴 (にしの ひろき) 氏
1983年 土木工学科卒業(13回生・舞石研究室)
現 在 不二ポーリング工業株式会社 勤務
工大杜の会 幹事長

平成 27 年 11 月 28 日 (土) 東京都千代田区霞が関ビルにて「東北工業大学同窓会設立 30 周年記念講演」並びに「第 1 回関東圏東北工業大学同窓生の集い」が開催され、工大杜の会 (土木工学科卒業生) から西野、千坂が出席してきました。

当日は、秋元会長をはじめ十数名の同窓会事務局の方々と、電子 11 名、通信 5 名、建築 16 名、土木 13 名、意匠 10 名の計 55 名の同窓生が、また、来賓として大学から岩崎理事長他 10 名の教職員の方々が出席されました。

最初に、記念講演として岩崎理事長による『垂直磁気記録とビックデータ時代』を拝聴しましたが、日常普通に利用している 1 テラのハードディスクには、ひとつの図書館の蔵書全てと同じ文字情報が記録出来るとのお話に、ハードディスクの基本開発に貢献された岩崎理事長の偉業を再認識させられる時間になりました。

続いて開催された「第 1 回関東圏同窓生の集い」では、参加者が、世代や学科枠を超えた楽しい雰囲気の中で、盛んに意見交換や近況報告を行い、最後に全員で大学歌を斉唱し盛況のうちに終了しました。また、支部長には、遠藤道義 (電子工学科 昭和 45 年卒) 様を選出されました。

今回、関東圏同窓生の集いに参加して、職種も立場も違えど、同じ大学の学士として社会で活躍している沢山の方々に出会えたことは、とても糧になったと感じています。

今後も関東圏の皆様の活動に期待しております。



活躍する工大人

「ものづくり・ひとづくり」の大切さ



古川工業高校 校長

萩野 元彦 (はぎの もとひこ) 氏

1982年 通信工学科卒 (15回生 佐伯・大工研究室)

民間企業→米谷工業高校→黒川高校→スポーツ振興課→白石工業高校→県第二工業高校 教頭→古川工業高校 教頭→県工業高校 教頭→平成28年4月より 古川工業高校 校長

工大を卒業後、セキュリティー機器製造会社に勤務後、高校の教員生活を送ってきました。

製造会社では、製品・製造をとおして、ものづくりの楽しさ・変化・達成感を子どもたちに伝えたいと思いました。教員生活の中で、ものづくりの楽しさ、特に、ものづくりには製造と直結したものがあり、創意・工夫そして技能・技術の向上の必要性を感じ、どのように支援や連携すべきかを図ってきました。また、企業・大学等との連携では、インターンシップ・出前授業やオープンキャンパス等をとおして、仕事の経験・内容や専門教科の深さを学ぶことにより即社会に役立つ人材の育成に努めてきました。

ものづくりの特性は、ものを単なる物質としてではなく擬人化や物神化して命あるかのように扱うところにあり、人間の精神や心に深く関わる部分を大切にすることです。高校においては、培われた知識・技能を活かし合理的かつ自発的に処理をおこない倫理観をもって判断できる実践的な心構え、思考態度を育てることが重視されています。

近年、高校と大学の連携が盛んですが、ものづくりは得意だが、基礎学力不足で理論は苦手ということがないよう、高校ではしっかりと技能・技術を身につけ、大学ではものづくりのスキルを十分学び、車の両輪になれる技術者の育成を期待したいです。そして、自分の技を人に伝えて、人を育てる能力及びことばで伝えるコミュニケーション能力も求められることと思います。

今後の技術者に求められることは、問題を解決する能力と発見する能力いわゆるPDCAサイクルをあらかじめ実習などをとおして十分学んで身につけ、さらに自分なりの感性をものづくりに活かし磨くことで自分や他人を感動させられるものづくりにつなげられるよう努めてほしいものです。



「高校生ものづくりコンテスト」の電子回路組立部門に取り組んでいる生徒

活躍する工大人

私の原点は八木山に！



東急建設株式会社 土木本部 土木技術設計部設計グループ第2チームリーダー

有田 剛 (ありた つよし) 氏

1968年3月12日京都市

1993年 土木工学科卒業 (23回生・外門研究室)

私は剣道部に所属していた。大学なのに掛り稽古ばかりした。柔道部・アメフト部・バスケット部の幹部と学科の垣根を超え、高田先生・榎本先生・高橋先生によくかわいがって頂いた。勉強はあまりしなかったがもっとしておけばよかったと思う。(勉強しても得られないものをたくさん会得したので良しとするが。)

ラスト1年は外門研究室に在籍させて頂いた。研究室は日々実験であったから日中の殆どを研究室で過ごした。個性的な顔ぶればかりの熱い雰囲気、何かというと酒をよく飲んだ。皆一人前のつもりだった。東北総体が終わってからの就職活動。バブルだったので殆ど終了していた。電話で拝み倒して弊社のラスト試験に行った。そこで学生への対応の悪さに騒動を起こし、あきらめて帰って来たが、物好きが居たのであろう、合格し現在入社23年を迎えた。入社後5年間は在来鉄道駅の地下化工事に従事。東急線複々線化の大現場だった。工事の節目に何度も感動があり、仲間と涙を流した。無我夢中で気が付いたら、地下鉄新駅築造・在来線耐震補強・廃棄物処分場築造・トンネル工事と渡り歩いていた。北海道新幹線のトンネルを最後に内勤となり、現設計部署となった。現場人で入社し設計職となり、賞も幾つか頂いた。しかし人生は色々だ。学生時代、私には最高の仲間がいた。もういらないと思っていたが社会人になり、現場でも内勤でもどん底の時には必ずその時々「友」ではなく、「仲間」に助けられている。地図になった過去私が従事した各現場は、すべて濃密な思い出が詰まった場所だ。子どもがもう少し解る様になったら一箇所ずつ連れて回りたい。もっと時が経ち、老人になったら、今度は設計した土木施設や構造物を妻と回りたいと思う。やはり土木は土木、男のロマンなのである。これを書いて、そろそろ工大で飲まないかとあの頃の「仲間」に連絡したくなった。やはり私の原点はあの八木山にあるのだから。

活躍する工大人

真の教育とは

東北工業大学ライフデザイン学研究所デザイン工学専攻

佐藤 諒 (さとう りょう) 氏

1990年10月21日生

2013年3月 安全安心生活デザイン学科 (2回生・石川研究室)

2013年4月 株式会社アーネストワン

2014年4月 大工業

2016年1月 宮城県立聴覚支援学校 常勤講師

2016年4月 宮城県立聴覚支援学校 非常勤講師

2016年4月 東北工業大学 ライフデザイン学研究所 デザイン工学専攻 生活デザイン科学分野 (博士 (前期) 課程)



「人生嬉しいこと半分、辛いこと半分。人が幸せに見えるのは、その人が真に幸せになろうと努力しているからである。」この言葉は私にとって大切な言葉の一つとなっています。卒業してから戸建て住宅の現場監督、大工、そして現在、宮城県の高校の非常勤講師をしながら、東北工業大学の大学院へ戻ってまいりました。私は社会経験をしてから大学院へ進みたいと学部時代から思っていました。なぜなら、様々な視点から物事を見て感じ、知識を生きていくための知恵へとしたいと考えたからです。これらを考えるに至ったのは知識だけではなく、本当の意味で生徒に生きるための知恵を教えてあげられるような教員になることが私の目標だからです。そのためには、人生において嬉しいこと辛いこと様々な経験をし、生徒の人生の幸せに役立つようなことを教えていきたいと思っています。生徒との関わりは、私に様々な刺激を与えてくれます。自分が授業等で教えているようで、様々な場面で生徒から教わることがとても多いと日々感じております。生徒は未来への希望です。彼らが日本や世界をよりよく導いてくれる可能性を持った希望なのです。私たち大人は彼らに何を伝え、何を教え、そしてどのようなことを考えさせ、感じさせるのか。教育とは、大人が一方的に物事を教えるものではありません。子供たちが我々の意見を聞いて何を考えるのか、また何を心に残すのか。それを共有しながら物事に対して一緒に考えることが教育には必要なのです。若輩ものの私ではまだまだこのようなことは上手くできませんが、本当の教育者となるよう今後も邁進していきたいと考えております。最後に、最初に述べた文章は私が初めて生徒に送った言葉です。この言葉を聞いて生徒はどのようなことを考え、感じてくれたと思いますか。子供たちには大人にはない可能性が本当に隠されているものですね。



活躍する工大人

大学の学びが 私の仕事のスタイルに

株式会社七十七銀行 窓口相談

千田 あかり (ちだ あかり) 氏

1992年 8月3日生

2015年 経営コミュニケーション学科卒業

(4回生 宮曾根研究室)



私は現在、七十七銀行の窓口相談係として新規口座開設や相続、資産運用等様々な仕事をしています。また、地元の金融機関として地域のお祭りなど様々な活動にも参加しています。窓口はそのまま銀行のイメージに直結するため責任が重大ですが、そこがやりがいでもあります。就職して1年以上経ちましたが、初めは同期や先輩に優秀な人が多く、上司が求めるスキルの高さにとても不安でいっぱいでした。そんな中で私は明るい挨拶やお客様目線の対応など私にもできる簡単なことを徹底して行いました。その結果、少しずつではありますが私を頼って来店されるお客様が増え、上司からも支店の雰囲気が明るくなったと評価されるようになりました。ようやく自分の仕事のスタイルが確立できてきたような気がします。

そして今、窓口でお客様と向き合うなかで、大学での学びが大きく役立っています。私はコミュニケーションコースを履修して海外語学研修にも参加し、対話と表現の技術を勉強しました。お客様のお困りごとや要望を引き出すために、徹底してお客様のお話しに耳を傾けています。最近では、新しい金融・経済政策が打ち出されるたびに、問い合わせも増えるのでしっかり把握し説明しなければなりません。私は金融・経済を専門に学んできたわけではないので人一倍の努力が必要です。その為にも毎日経済新聞に目を通したり、資格取得に励んでいます。

在校生の皆様はぜひこれから先、自分らしさをなくさずに過ごしてください。社会に出ると必ず大きな壁にぶつかり、不安でいっぱいになります。ただ何か1つでも自分に出来ることを見つけ、努力することで誰かが見てくれています。時間がかかっても必ず結果につながります。そして大学生活は私の人生で一番楽しい時間でした。今しかできないことにたくさんチャレンジしてください。



建築 50 周年

本年、建築学科は 50 周年を迎えました。1966 年に 1 回生の入学、1970 年に最初の卒業生を輩出し、以来 7,600 名超が本学科を卒業しました。建築学科ではこの 50 年間、社会の発展や時代のニーズに応えながら教育・研究・社会貢献の諸活動を行ってきました。これも一重に皆様の社会でのご活躍と学科に対するご支援あってのことと思っております。この記念すべき節目の

時を皆様とお祝いすべく「工大建築学科卒業生の集い」を開催する運びとなりました。来る 10 月 8 日（土）、メトロポリタンホテル仙台にて開催です。詳細とお申し込みは建築学科ホームページでご確認ください。直前まで申込みも受け付けます。懐かしい先生方、同期、そして研究室の仲間との再会の場としてください。

電通 50 周年

今年度は、本学の創立から歴史を刻んできた知能エレクトロニクス学科（旧電子工学科）と情報通信工学科（旧通信工学科）から 50 回目となる卒業生が誕生します。また、知能エレクトロニクス学科は、来年度から電気電子工学科に改名する予定です。この節目を迎えるにあたり、両学科を支えてくださった旧教職員、現職教職員と同窓生が集う記念講演会と懇親会を企

画しました。懐かしい方々との再会は、在学当時の情熱と友人と育んだ豊かな記憶を思い起こさせる機会になると思われま。是非、身近にいる OB、OG をお誘いの上、多数のご参加をお待ちしております。

日時：11 月 12 日（土）16：00～17：00

場所：仙台国際ホテル

来年度土木工学科・工業意匠学科が 50 周年事業を予定！

土木工学科と工業意匠学科は来年 50 周年（創設 1967 年）を迎えます。

土木工学科は、2003 年に建設システム学科、2011 年には都市マネジメント学科に名称変更しております。

工業意匠学科は、2003 年にデザイン工学科、2008 年には工学部デザイン工学科から、ライフデザイン学部クリエイティブデザイン学科、安全安心生活デザイン学科、経営コミュニケー

ション学科を増設しております。

両学科ともに、土木工学科や工業意匠学科から改名し現在に至っておりますが、創設から 50 回目となる同窓生や、これまで尽力された教職員の皆様と集う、記念事業を検討しております。それぞれの学科から来年にご案内をしますので、是非ご参加いただきますようお願いいたします。

● 「同窓会名簿改訂版」発行について ●

同窓会では5年ごとに発行しております「同窓会名簿改訂版」を平成29年7月に発行することになりました。いまだ約10,800名の会員が宛先未確認者となっており、会からお送りしている「工大人」やその他お知らせが届いておりません。

今回は同窓会名簿を発行するにあたり、会員皆様の個人データの確認と宛先未確認者への調査も行われます。是非、その際にお知り合いの方がいた場合は情報を教えてくださいますようよろしくお願い申し上げます。なお、寄せられた情報については改めてご本人様に封書をお送りし確認致します。



今回の「同窓会名簿改訂版」は下記の内容となります。

- サイズ／B5 ○ページ数（予定）／684頁
- 索引付き／人名索引（旧姓も引ける50音順）、勤務先別索引

*勤務先別索引は「同窓会名簿改訂版調査ハガキ」の返信があった方のみ掲載する方向で考えております。しかし、返信数が少ない場合は勤務先別索引の掲載を取りやめることもありますのでご了承ください。

- 価格／5,000円
（消費税・送料込み。但し入金する際の手数料は別途）
- 一般広告／1/4頁21,600円 1/2頁32,400円
全1頁54,000円 特別頁108,000円
（消費税込み。名簿は無料進呈となります。）
- 賛助広告／氏名と卒年学科のみの掲載1口10,000円
（消費税込み。名簿は無料進呈となります。）

同窓会ホームページからの会員登録のお知らせ

昨年の11月に同窓会ホームページがリニューアルされました。閲覧した方がわかりやすい体裁とし新たに会員登録フォームを設けいつでも会員の皆様が登録しやすい環境に整備しました。是非、ご活用いただければ幸いです。

同窓会ホームページトップ画面上の、**【お問い合わせ】**をクリック。



facebook も開設しました。

お問い合わせフォーム入力の上、送信してください。

連絡事項の内容を選択できます。

個人情報

会員各位

東北工業大学同窓会は株式会社廣濟堂へ個人情報に関わる名簿制作ならびに調査業務・発送業務を委託いたしております。

東北工業大学同窓会
会長 秋元 俊通

株式会社廣濟堂の受託業務としての個人情報の取扱いについて

- いただいた個人情報は、以下の目的で使用いたします。
 - ・同窓会会員名簿への掲載
 - ・学校ならびに同窓会からの通信文書および名簿の発送
 - ・同窓会が本来目的により活動する場合、必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合
- ご提供いただいた個人情報については、株式会社廣濟堂データベース課(以下弊社)が責任を持って管理いたします。
- 弊社は、ご提供いただいた個人情報を正確に処理するように努めます。
- 弊社は、当社が信頼に足ると判断した外部の企業に、弊社の責任において個人情報のデータ処理ならびに発送作業を委託することがあります。
- 弊社は、名簿ならびに円滑なる同窓会活動を行うために、氏名、住所、電話番号、勤務先名、勤務先電話番号など、同窓会において必要とされる情報を調査いたします。必ずしもすべての調査活動にお応えいただく必要はありませんが、郵送等による返信が無い場合、お送りした確認内容で変更は無いものとして名簿に掲載し、引き続きその登録先に郵送物等を送らせていただくことがあります。
- ご提供頂いた内容は、本人の承諾なしに学校・同窓会関係者以外の第三者に開示することはありません。ただし、以下のような場合は、例外として情報を開示できるものといたします。
 - ・法令の規定による場合
 - ・ご本人ならびに公衆の生命、健康、財産等の重大な利益を保護するために必要な場合
- 個人情報は、原則として本人にかぎり、開示・訂正・削除を求めることができます。具体的な方法については、下記お問い合わせ先までご連絡下さい。

【お問い合わせ先】(同窓会会員名簿および会員データについて)

株式会社廣濟堂

データベース課 お客様相談センター 受付担当(個人情報保護管理者代理人)

Tel 0120-058-651 (受付時間 平日 10:00~17:00 / 土日祝は休み)

【会員登録データご記入のお願い】

- データの訂正は赤ペンでご記入下さい。
訂正箇所や書き間違いがある際は、修正液等で訂正しないようお願いいたします。
- 名簿購入・データの訂正の有無にかかわらず返信下さい。尚、返信が無い場合には、そのデータで名簿に掲載されますのでご了承下さい。
- 勤務先名は自営の方は自営とご記入のうえ、社名・店名をご記入ください。
- 現在学生の方は親元の住所をご記入下さい。勤務先に現在通学の学校名を書く時は(在)とお書き添え下さい。
- ご本人が不在の場合はご家族の方が本人に了解を得た上でご記入・ご返信下さい。
- ご本人が逝去されている場合は、ご家族の方が登録データ面の余白にその旨をご記入の上、ご返信をお願いいたします。
- 上記の個人情報取扱いについてご同意いただいた上で、ご記入ください。

< 同窓会からのお知らせ >

東北工業大学同窓会 第32回定時総会・懇親会のお知らせ

【総会議題】

< 1 > 平成 27 年度事業報告 < 2 > 平成 27 年度決算報告 < 3 > 平成 27 年度監査報告
< 4 > 平成 28 年度事業計画 < 5 > 平成 28 年度予算案 < 6 > その他

【学校見学会・定時総会・懇親会】

開催日時 平成 28 年 10 月 29 日 (土)

会 場 仙台国際ホテル

(仙台市青葉区中央 4-6-1 022-268-1111 (代))

■学校見学会 14:30 ~ 15:30 八木山・長町キャンパスをご案内します。

・仙台市営地下鉄東西線で仙台駅より八木山動物公園駅まで来ていただき八木山動物公園駅から大学までは八木山シャトルで送迎いたします。八木山シャトルは右記の乗降場を 14:00 に出発します。

*ご希望の方は下記宛に事前申込が必要となります。10月25日(火)までに電話かFAXにてお知らせください。

事務局：東北工業大学キャリアサポート課内

TEL 022-305-3336 FAX 022-305-3337

■定時総会 16:30 ~ 17:30 3F 桜の間

■懇親会 17:30 ~ 19:30 4F 広瀬の間

懇親会参加費：3,000 円

※参加費は当日会場にて徴収いたします。

懇親会には多くの先生方もご臨席されます。同級生、研究室やクラブの同窓生等、お誘い合わせの上で参加ください。



卒業した皆様へ

東北工業大学同窓会 会費未納の方へ「会費納入のお願い」

同窓会会費は会員間のネットワーク化事業、在学生への支援、支部活動の推進、本学および本学後援会との共同事業等を進めるために有効に活用しています。同窓会会費未納の方は、別紙郵便振替通知書で、早急に納入いただきますようお願い申し上げます。

●終身会費 20,000 円

(5,000 円×4回・10,000 円×2回の分割納入方法もございます)

●郵便振替口座

02280-5-22263 東北工業大学同窓会

※すでに納入済の会員には、郵便振替通知書は同封しておりません。

本会運営の趣旨をご理解の上、この通知をご御容赦ください。

発 行：東北工業大学同窓会

事務局：東北工業大学キャリアサポート課内

〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町 35-1

TEL.022-305-3336 FAX.022-305-3337

URL.koudai-dousoukai.net